

# 研究部だより

事務職員会研究部

寒空の頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。研究部では、今年度の重点である「学校間・地域間連携」について研究を進めてきました。この研究を受けて、私たちに期待されている役割を意識し、教育の質の向上につながる活動へ取り組んで行きましょう。研究部では、事務を「つかさどる」学校事務職員として、これからも事務職員のめざす姿について研究を重ねていきます。

## 令和元年度 活動報告



研究部では、子ども達や学校を取り巻く環境が、複雑化・多様化する中、子どもたちの輝く未来に向けて、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要であり、互いに「めざす子ども像」や「課題解決へのビジョン」を共有し、連携・協働による取組を進めていくことが重要だと考えました。

7月の全体会では、梅ヶ島小中学校の事例から、誰がどの学校にいても自校やその地域を知り、自校にとって必要な取組を考え、事務職員が「一歩」を踏み出すことで連携につながるのではないかと提案しました。また1月の全体会では、他校や校内の教職員、地域とのつながりを積極的に持ち、既に動き始めている末広中学校区、大里中学校区、豊田中学校の事例を紹介しました。

地域社会との協働によって、教育の質の向上を図っていくためには、学校の内外をつなぎ、コーディネートすることが必要となります。そのとき、学校の窓口という重要なポジションにおいて、地域の方々や業者など多方面へのネットワークを有する事務職員は、まさにその役割を果たすことが期待されているのではないのでしょうか。1月の全体会で行ったグループワークでは、学校間・地域間連携の場において、目標を共有し改善策を考えるという一連の連携の場を疑似体験する事で、どのように関わっていくかを意識づける機会としました。

経営資源を地域や学校のニーズに応じてつなぎ合わせ、子どもの豊かな育ちの実現を目指すことこそが、新しい時代を生き抜く事務職員の姿ではないのでしょうか。自校や地域の抱える課題や現状を知り、そこから多様なイマジネーションを膨らませ、近い将来の「やってみたい」ことを皆さんで考えていけるといいですね。

### <グループワーク感想>

- ・それぞれが色々な立場にたって考えることができ、面白かった。
- ・面白いアイデアが出たが、予算や制度上からみた時に、どう対応していったらいいのかが難しいと感じた。しかしだからこそ、事務職員の存在は大事だと感じた。
- ・他のグループの模造紙を、色々な人と交流しながら見て回る事ができよかった。

## 第2期活動プランについて

令和2年度から、第2期活動プランがスタートします。「学校事務職員の専門性と役割」、「財務マネジメント」、「情報マネジメント」、「カリキュラムマネジメント」、「組織マネジメント」の5つを重点として「子どもの豊かな育ちの実現」に迫っていきます。

来年度も引き続き、研究部活動にご協力をお願いします。

